



具休 再考

国際スカイフェスティバル（大阪なんば高島屋屋上、1960年4月19日～24日）写真提供：今井祝雄



[会場・交通案内]

大阪大学中之島センター
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53
tel. 06-6444-2100

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

- ◎京阪中之島線・中之島駅（6番出口）より徒歩約5分
- ◎京阪中之島線・渡辺橋駅（1番出口）より徒歩約5分
- ◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分
- ◎JR東西線・新福島駅より徒歩約9分
- ◎JR大阪環状線・福島駅より徒歩約12分
- ◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅（4番出口）より徒歩約10分

第3回

大阪と 前衛美術

主催 大阪大学
総合学術
博物館

2019年1月6日[日] 14:00—17:50

大阪大学中之島センター3階 講義室304

定員80名 聴講無料、事前申込み不要、当日先着順
(13時15分より整理券を配布します)

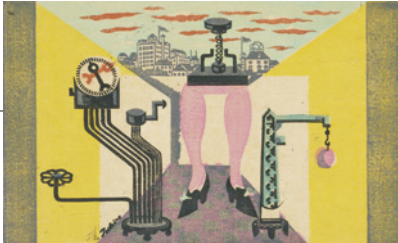
大阪大学総合学術博物館では、関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」（略称：具体、1954-1972 年）について、従来の解釈を複数の視点から見直すために、2016 年度より一年に一度テーマを設けてシンポジウムを行ってまいりました。2016 年度は「第 1 回 1950 年代の前衛グループ」、2017 年度は「第 2 回 1930 年代の前衛」を開催し、それぞれの文脈で具体の特質を検討しました。シリーズ 3 回目で最後となる今年度はより視野を広げて、具体が活動を展開した大阪という都市との

関わりに重点をおきます。大阪で前衛美術はどのような位置を占めてきたのか、そこに特徴はあるのか等について、実際に具体で活動し、グループ解散後も都市における美術のあり方を提起してきた作家や、都市と美術を考える上で重要な分野である広告デザインの研究者らを招いて話合います。なお本シンポジウムは、平成 28 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）課題番号 16K02266「具体美術協会」再考―複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面―）による研究成果の一部です。

プログラム 1.6.Sun.

14:00 – 14:05 趣旨説明 加藤瑞穂

14:05 – 14:50 [発表 1]
大大阪の時代と前衛絵画
——前田藤四郎の場合
橋爪節也

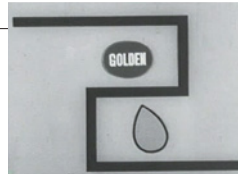
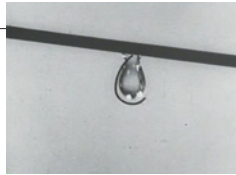
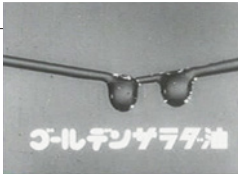


前田藤四郎《脚と機械（廊下に立つ婦人）》1928 年頃
リノカット、紙 15.5×25.5 cm
大阪新美術館建設準備室蔵



前田藤四郎《聴覚》1929 年
リノカット、紙 24.5×37.5 cm
大阪府 20 世紀美術コレクション

14:50 – 15:35 [発表 2]
吉原治良の
「広報」と「広告」
竹内幸絵



吉原製油「ゴールデンサラダ油」テレビコマーシャル 1960 年 制作：株式会社ティ・シー・ジェー

15:50 – 16:35 [発表 3]
都市大阪の感性
——〈具体〉とその後
今井祝雄



今井祝雄《タイムストーンズ 400》1982 年
石粉・ポリエステル・ガラス繊維・鉄骨 3×1.2×16.5 m
新大阪駅前（大阪市淀川区西中島）

16:35 – 17:50 [討議]

橋爪節也
大阪大学教授 共創機構社会学共創本部／総合学術博物館／文学研究科 東京藝術大学美術学部附属古美術研究施設助手、大阪市立近代美術館建設準備室を経て現職。専門は日本東洋美術史。「木村蒹葭堂——なにわ知の巨人」（2003）、「没後八〇年記念 佐伯祐三展」（2008）、「北野恒富展」（2018）等の展覧会に携わる。編著書に『モダン心斎橋コレクション——メトロポリスの時代と記憶』（国書刊行会、2005）、『大大阪イメージ——増殖するマンモス／モダン都市の幻像』（創元社、2007）、「映画「大大阪観光」の世界——昭和 12 年のモダン都市」（大阪大学出版会、2009）等。

竹内幸絵
同志社大学社会学部教授 サントリーミュージアム「天保山」学芸員を経て現職。専門は広告史、デザイン史、歴史社会学。著書『近代広告の誕生——ポスターがニューメディアだった頃』（青土社、2011）は初の日本のポスター通史と評価される。2012 年日本広告学会賞受賞。編著に『広告の夜明け—大阪・萬年社コレクション研究』（思文閣、2017）、共著に『幻の東京オリンピックとその時代』（青弓社、2009）、『メディア学の現在（新訂第 2 版）』（世界思想社、2015）、『大衆文化とナショナリズム』（森話社、2016）等。

今井祝雄
美術家、成安造形大学名誉教授 大阪市立工芸高校在学中の 1964 年、第 14 回具体美術展に初出品。翌年会員になり 1972 年まで在籍。1966 年、第 10 回シェル美術賞展で一等賞受賞。当時より絵画やレリーフに留まらず、写真、映像等多岐にわたるメディアに取り組み、今日に至るまで毎年発表。1980 年以後はパブリックアートの研究・制作にも携わる。著書に『白からはじまる』（ブレーンセンター、2001）、『未完のモニュメント』（樹花舎、2004）、『タイムコレクション』（水声社、2015）等多数。2018 年 11 月よりアクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー（ベルギー）で最新の個展開催中。



[問い合わせ先]
大阪大学総合学術博物館
〒560-0043
豊中市待兼山町 1-13
大阪大学会館内
tel. 06-6850-6714（平日 9:00–17:00）
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

加藤瑞穂
大阪大学総合学術博物館 招へい准教授
1990 年代半ばより具体美術協会に関する展覧会企画、論文執筆等に取り組む。最新の論考に「美術と演劇の間——具体美術協会と維新派との接点をさぐる」（永田靖編『維新派の時代（仮）』大阪大学出版会、2018 予定）等。本シンポジウム企画者。